

岡山英雄著
『ヨハネの黙示録注解』
紹介-講義

一宮基督教研究所

安黒務

ヨハネの黙示録の注解書の位置づけ

リベラル系:極端な象徴主義

福音主義系:字義主義と象徴主義のバランス

ファンダメンタル・ディスペンセーション系:極端な字義主義

ファンダメンタル・ディスペンセーション主義の 黙示録理解の変遷:限りなく福音主義に接近中!

古典的ディ
スペンセーシ
ョン主義

改訂ディスペ
ンセーション
主義

漸進主義ディ
スペンセー
ション主義

ヨハネの黙示録の学び方

福音主義的黙示録理解

エリクソン著「キリスト教神学」

G.E.ラッド著「神の国の福音」「終末論」

岡山英雄著「患難期と教会」
「小羊の王国」「黙示録注解」

R.ボウカム著「ヨハネの黙示録の神学」
「The Climax of the Prophecy」

安黒務「黙示録 講解説教」i-tune podcast & youtube(公開予定)

岡山英雄著『ヨハネの黙示録注解』 黙示録を読み解くための七つの鍵

1. 序

1. 小羊キリストの啓示
 2. 預言の書
 3. 書簡としての統一性
 4. 恵みの書
 5. 天と地との対比:小羊の王国と獣の国
 6. 来臨前と来臨後の対比:三年半と千年
 7. 三つの視点:過去・現在・未来
2. 新しい視点:1:7「嘆く」、11:2「1260日」、11:13「神に栄光を帰す」、22:21「すべて」
 3. あとがき

新しい視点

- 1.「嘆く」1:7
- 2.「1260日」11:2
- 3.「神に栄光を帰す」11:13
- 4.「すべて」22:21

推薦の言葉・あとがき・お奨め等

1. 【岡山英雄著『黙示録注解(めぐみがすべてに)』】内容紹介(抜粋)

はじめに神が万物を祝福し、終りにキリストが万物を祝福する。天地創造のみわざが新天新地において完成し、神のみわざは全被造物に及ぶ。(黙示録には)神の恵みによる地上の民の悔い改めと救いという主題が提示されている。この主題は「二人の証人」の幻に鮮やかに示されている。「二人の証人(神の民・教会)は証言を終えると殺されるが、復活し、昇天する。その後、大地震が起こり、七千人が死ぬが、生き残った者たちは恐れ、悔い改めて「神に栄光を帰す」(11:13)。神の民の殉教的証言によって、地上の民は回心に導かれる。(キリストの)初臨において目立たなかった「苦難のしもべ」の預言が成就したように、再臨においても傍流のように見える「諸国民の回心」の預言が成就する。黙示録において旧約の預言がすべて成就し、さらにそれを超える神の驚くべき救済の計画が実現される。

2. ボウカムの黙示録に関する論文集「預言の頂点(The Climax of Prophecy)」

だった。その釈義の緻密さ、斬新な解釈に驚いた。その中心をなすのは九番目の論文「諸国民の回心」であり、百ページにわたって11:13こそが黙示録の中心であると論じている。終末において地球規模でのキリスト教への大回心が起こるという解釈は、限りない慰めと希望を与えるように思えた。注解の執筆を終えた頃、依頼されていたクリストファー・ライトの『神の宣教』の14章を翻訳した。彼は聖書を諸国民への宣教の書として読み、黙示録をその頂点としている。それは筆者の理解とほぼ同じであり、宣教学的な点からも黙示録はきわめて重要な書であることを確信した。

3. 安黒からのお奨め

すでに、岡山氏の視点として明確な「ディスペンセーション主義聖書解釈法の克服」つまり、旧約聖書の光の下で新約聖書を再解釈する視点ではなく、新約聖書の光、新約の使徒たちの聖書解釈原則の下で旧約聖書を再解釈する視点、が明白であるとともに、大田先生がインドのヴィクター・ジョン師のチャレンジからもたらされた「弟子をつくれる弟子となる」「宣教地日本をくまなく宣教する拠点づくり」等々のビジョンにかなう、「神の民の殉教的証言」「諸国民の回心」「終末において地球規模でのキリスト教への大回心が起こるといった、宣教の書物である聖書の頂点としての黙示録解釈の視点は、KBIのビジョンにもかなう視点ではないでしょうか。そのような視点をもって、黙示録を再解釈していただければ、黙示録はまたKBIのビジョン推進のエネルギー源のひとつになるのではないのでしょうか。